

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題5 学習意欲を高める指導方法の改善と充実」

I 学校名 北見市立相内小学校【オホーツク管内】

II 研究の概要

1 研究主題

子どもの主体性を育む日常の授業改善

2 主題設定の理由

これからの社会に生きる子どもたちは、主体的に課題を発見し解決に導く力が求められる中、本校の児童の課題として、主体性と自己肯定感の低さがある。また、本校の児童は相手を意識した話し方や話す技術、豊かな語彙力、主体的な活動、読解力の不足もあげられる。その実態を踏まえ令和5年度経営の重点を「未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む教育の推進」と設定した。必要な資質・能力とは「学びに向かう力（どのように学ぶか）」「知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）」「思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）」の三つの柱から構成される。今年度は「学びに向かう力（どのように学ぶか）」に焦点を合わせ、「主体的に学習に取り組む態度」の二側面である「粘り強さ」と「自己の学習の調整」を育むための授業づくりを行っていく。子どもたちにとって身近な地域に関することを題材にしたり、他者を意識し、共に学び合い、伝え合う場を設定したりすることで、子どもたちが主体的に学ぶようになるのではないかと考えた。これらのことを私たち教師が意識し、授業の改善を行っていくことで本校の児童の課題が解決され、主体性を育み、やり遂げた達成感から自己肯定感の向上にもつながると考え研修テーマを設定した。

3 研修内容と具体的取組内容

①具体的な方策1「課題の重点化」

- ア 苦手意識の強い児童のための個人思考の場の設定と協働学習の充実
- イ 自分の考えをもつことができる授業づくり（効果的なICTの活用）
- ウ 家庭との連携（自学を通じた学習内容の定着を図る学び直し）

②具体的な方策2「検証改善サイクルの活用」

- ア ロードマップを作成し、計画的に成果検証を実施
- イ 全国学力・学習状況調査結果、チャレンジテストを分析し、授業改善の視点を設定
- ウ 「課題の重点」克服のための授業改善
 - ・外部講師や友達など、他者との関わりの中で学びとる授業の展開
 - ・北見市授業力向上研修会における講師（樺山敏郎）の授業改善に向けた指導・助言
- エ 課題改善を意識した交流授業を行い、授業改善の新たな方向性を共有

Ⅲ 実践例

1 相小っ子タイム

①概要

総合的な学習の時間や社会科、理科の時間等を活用し、3年生から6年生が学ぶテーマを設定し、他者と関わり合いながら学びを深める活動。

2月の参観日にて、相小っ子タイム発表会を実施する。3年生から6年生が順に保護者や他学年の児童に向けて発表し、交流を行う。

②活動の様子

【3年生のテーマ】 わたしたちのまち自慢「玉ねぎ・ビート」

北見市の代表的な農産物「玉ねぎ（生産量日本1位）」と、主に北海道でしか栽培されていない「ビート」について、相内地域でも栽培されていることから身近な農作物として、社会科の学習と教科横断的に取り組んでいる。

〔年間指導計画の概要〕

5月 JAきたみらいの方々と北見市農政課の方々を講師に招き、玉ねぎ栽培を学ぶ

9月 JAきたみらい玉ねぎ選果場見学

11月 いただきますカンパニーの方を講師に招き、食育出前授業を行う

12月 玉ねぎ染め、ビートから砂糖づくり

2月 相小っ子タイム発表会（学んだことや体験したこと等をまとめて発表）

玉ねぎ定植



食育出前授業「ビートから砂糖ができるまで」



玉ねぎ染め

玉ねぎの煮汁に「塩」と「クエン酸」と「ミョウバン」をそれぞれ入れ、染まり具合の違いを発見。



ビートから砂糖づくり

自分たちで育てたビートを使い、食育出前授業で学んだ方法で、砂糖作りに挑戦。

【4年生のテーマ】 わたしたちのまち自慢「白花豆」

北見市瑠辺薬町の代表的な農産物「白花豆（作付面積日本1位）」を身近な農作物として、自分たちでも栽培し、白花豆に関して、自分が知りたいことを追究する調べ学習を行った。

〔年間指導計画の概要〕

5月 白花豆の栽培

9月 上仁頃美里開拓資料館見学にて北見の歴史を学ぶ

10月～白花豆に関して知りたいことをグループごとに追究

2月 相小っ子タイム発表会（白花豆について追究したこと等をまとめて発表）

白花豆の種まき



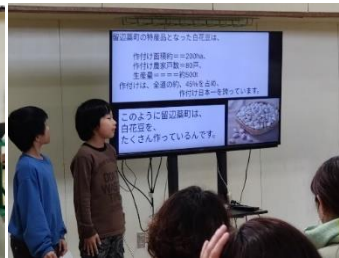
畑の管理



資料館見学



相小っ子タイム発表会 保護者の方も参観。



白花豆で作ったマグネットを
全校児童と給食の調理員さん、



先生方に
プレゼント。

【5・6年生のテーマ】 データを活用して、効果的な省エネを考えよう

身近な環境問題を調べ、実際に行った実験やアンケートをもとにまとめたデータから、SDG'sの考えに触れ、自分たちでできることを考え、実践する学習。富士通の方に遠隔で交流し、アドバイスや感想をいただいた。

〔年間指導計画の概要〕

8月 北海道地球温暖化防止活動推進委員の方を講師に招き、環境問題について学ぶ

8月 食品ロスやごみ問題について調べ、またアンケートを取り、ポスターを作成

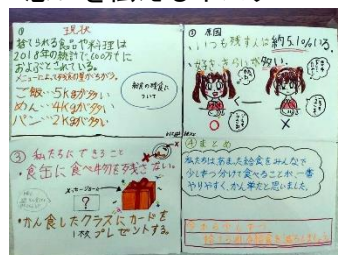
9月 自分たちにできる省エネについて考え、各家庭で実践

9月 富士通の方を講師に、実践し考えたことをプレゼン

リサイクルについて学ぶ



思いを伝えるポスター



遠隔でプロの方にプレゼン



富士通の方に
助言いただく。

【5・6年生のテーマ】 わが町北見自慢

自分たちの住む北見の良いところについて他者との関わりをもって調べ（アンケート、インタビュー、電話取材等）、また、実体験で確認したことを伝え広める学習。

〔年間指導計画の概要〕

- 11月 特産物等北見市ならではの事柄について、自分の調べたいテーマを決める
- 12月 調べる方法等計画を立て、グループごとに実践
- 2月 相小っ子タイム発表会（調べたことや体験したこと等の動画を加えて発表）
- 3月 協力いただいたお店や駅等に作成したポスターの掲示依頼

カーリングについてインタビュー



電話取材の様子



玉ねぎ嫌いな人でも食べられる調理法と実食した



結果についての発表。

北見の人気お菓子について食レポして紹介



3 成果と課題

【成果】

- ・ 「相小っ子タイム発表会」があることにより、協働的・対話的で深い学びに繋がっている。また、下学年の児童にとっては、次の学びに向けた明確なビジョンとして繋がっている。
- ・ 各学年のテーマが伝統的に続くことにより、指導者にはデータが蓄積され、改善しながらより良い学びに繋がっている。
- ・ 他者と関わりをもつことにより、自分事として学びとる授業が展開できた。
- ・ 自分たちで調べたり考えたりしたことなどを自信をもって伝えることができた。
- ・ 自己効力感をもって活動することができた。

【課題】

- ・ 総合的な学習の時間としては、主体的にかつ協働的に学習することができたが、この経験が国語や算数の授業に十分活かされているとは言えない。教師の側で、個人思考やそれをもとに友達と交流し、深め合い、理解し合う場の設定を設けるなど、授業の組み立てなどについて、検証し続ける必要がある。